

国際関係学科3年松崎未侑さんが京都外国語大学総長賞と特別賞のW受賞！

去る2018年11月24日(土)、京都外国語大学で「第36回全日本学生ポルトガル語弁論大会」が開催されました。今大会には、本学からの参加者(1名)以外に、京都外国語大学(3名)、天理大学(4名)、大阪大学(2名)、神田外語大学(1名)、常葉大学(1名)の計12名が参加し、それぞれのテーマで各自が熱弁をふるいました。そして、本学から参加した国際関係学科3年の松崎未侑(まつぎき・みゆ)さんが、見事、準優勝にあたる京都外国語大学総長賞(副賞:来年度のポルトガルの大学への奨学金支給)を受賞、さらに、参加者の中の1名のみにも贈られる特別賞にも輝き、「ダブル受賞」という快挙を果たしました。

松崎さんは「A força da capoeira(カポエイラの力)」というテーマで弁論に臨みました。そして、自身が15歳から習い始めたブラジルの格闘技と音楽の融合である「カポエイラ」が、単なるスポーツとしての側面だけでなく、彼女の人格形成や自己表現、立ち振る舞いにも大きな影響を与えていることを真っ直ぐなまなざしで論じました。



大会後の集合写真(松崎さんは2列目の左から4人目)

(写真: 京都外国語大学提供)

練習時間が思うように確保できない中、たとえ、わずか15分でも時間をみつけ、研究室で自宅での練習成果を共有しました。大会終了後、本人にも伝えましたが、本番が近づくにつれ完成度はぐんぐん上がっていったのですが、前日練習でもまだ不安要素がありました。これまでだったら、「練習通りいけば大丈夫!」というすっきりした気持ちで送り出すことができたのですが、あの日は何かもやもやが残りました。しかし、翌日、会場の京都外大での本番直前練習を聞き終わった時、前日とはまったく異なる素晴らしいパフォーマンスに心が震え、また、最後の最後まで練習に打ち込んできたことが想像され、涙が溢れました。そこでようやく、「いける!」と確信できたのでした。見事、準優勝、また、特別賞にも輝き、松崎さんの存在が光っていました。私も誇らしかったです。

今年もポルトガル語の大会をはじめ、様々な場面で県大生の可能性を感じることができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。応援、ならびに、ご協力下さった皆様に心より厚く御礼申し上げます。



喜びを分かちあう二人
(写真：京都外国語大学提供)

【松崎さんからのコメント】

大学1年生の頃から本学でポルトガル語を第二外国語として学び始めた頃から本弁論大会を目標に学習を続けてきました。中学3年生の時に始めたカポエイラはその頃内気な性格だった私を解放し、自己表現の仕方を教えてくれました。厳しい練習では闘うことへの恐怖で何度もくじけそうになったことがありましたが、自分の弱みとも向き合わせてくれ成長に導いてくれるカポエイラについて公共の場で語ることをできたのは何よりも嬉しかったです。大会発表に向けて毎日練習に付き合ってくださった高阪先生、添削や翻訳に携わってくれた友人、出場に向けて背中を押してくれた母親、これまでポルトガル語やカポエイラの指導をしてくださった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。来年のポルトガル留学に向けてより一層言語や文化の学習に励み、この経験を社会で貢献できるように成長するきっかけにしていきたいです。

文責：外国語学部 国際関係学科 高阪香津美